

医療情報システムのための医療知識基盤データベース研究開発事業の概要

平成22-24年度

背景：

医療情報の電子的管理と流通が今後の医療や医学の情報基盤として期待されており、電子カルテや健診・医療データの生涯にわたる管理と活用が検討されている。これにともない、医療の場では膨大な電子化テキストが蓄積されることが予想され、新たな医学的知見の発見、日常診療での類似症例の検索、医療事故防止支援など多彩な活用が望まれている。

申請者らは平成18年度に科学技術振興調整費「臨床医学データ解析のための医療知識基盤データベースの構築に関する研究」（以下、先行研究 H18 と書く）を実施し、臨床上多用される標準的な臨床用語が示す概念の数の規模は約25000程度で、その内訳は疾患約20000のうち基本概念 約5000、病名修飾語となりうる解剖学的構造、時間経過、位置、世代等の語が示す概念 約5000、基本症状所見概念 約1000、医療的操作（手術・施術・処置）約3000、その他であった。この研究結果を受けて更に申請者らは平成19年度から3年間「医療情報システムのための医療知識基盤データベース開発研究事業」（以下「DB 開発研究事業 H19」と書く。）を受託して実施し、人体解剖構造用語、病名用語、症状用語、手術処置用語など、臨床医学の基本的なコア概念に関連する約12,000語について基本データベースを構築し、その成果概要は公開シンポジウム（2010.3.30 東京）およびホームページ <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/medinfo/medont2009proj/> で公開してきた。

目的：本研究開発事業では、臨床医学分野での多様な用語ラベルと意味同士の関係をコンピュータが自動的にたどり、医学的意味を処理できる基盤となる知識データベース（オントロジー）を構築することが最終目標であるが、先行研究 H18 および DB 開発研究事業 H19 で申請者らが実施してきた成果を踏まえ、その成果物をさらに拡充するとともに利用可能性を拡大するため、DB 開発研究事業 H19 で開発された基本データベース に対して拡充を行う。